

# 桑畑からブドウ畑へ～再生の道～



④ 待ちに待ったブドウ棚の設置。



③ 伐採の後は伐根作業。バラの根はしぶとい。



② どこから手を付けていいのか悩みながらの伐採作業。



① 桑とバラでジャングルと化した桑畑。



⑧ 草刈り・消毒・剪定の作業工程をえて順調に成長したブドウ畑



⑦ 根付いたブドウの苗。

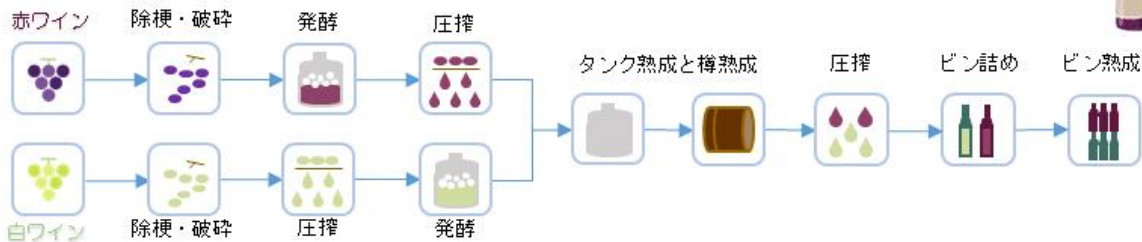


⑥ 甲州 100 本、マスカットベリー-A100 本を連携プレーで植え付ける。



⑤ メンバー揃っての苗の植え付け作業。

## ワインのできるまで



「熱く高い志が込められている。とどまらず、さらに大きく羽ばたいていこうじゃないか。」そんなメンバーの

白鷹町なのに、なぜホークスではなくイーグルスなのか。グループマークのモチーフとなっている白頭鷲は、アメリカの国章などにも使われていて、翼を広げると2mを上回る大型のワシ。「ワシ」も生産から販売まで手掛ける6次産業で村おこしをやってやるうじゃないか。地元

## ホワイトイーグルスの由来



メンバー募集・その他問い合わせ先 ホワイトイーグルス (担当: 川部)

TEL: 0238-86-1225 ホームページ: <http://white-eagles.org/concept.html>



# 白鷹町 ホワイトイーグルス White Eagles

ホワイトイーグルスの中心的メンバー川部貞夫さん(右)と川部正人さん(左)

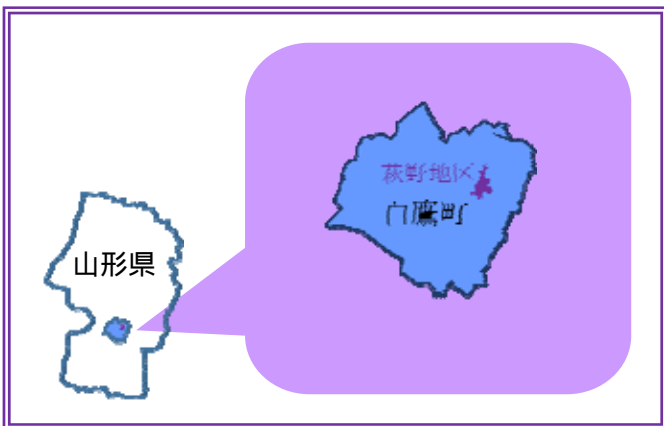
## 耕作放棄地の再生に挑む 萩野の熱きイーグルたち

今、若い世代による新たな動きが生まれている。

山形県白鷹町萩野地区。かつては葉たばこ、ホップ、養蚕が盛んな場所であったが、中山間地という営農条件の厳しさ等から近年荒れ地が目立ってきていた。そのような中、平成23年度からのほ場整備を契機に、地域を元気にしたい、地域を活性化させたいという機運が高まり、翌年に地元の農業者で結成されたのが、ホワイトイーグルスである。

平成25年の春には、耕作放棄地となっていた桑畑をワイン用ブドウ畑として再生、約20アールの土地にブドウ苗200本を植え付けた。三年目になる今年も順調に成長しており、昨年よりも多い収量が見込まれる。

「人と人との繋がりを大事に活動していきたい」と話す川部さんらの活動は、ブドウ栽培の他、環境整備事業「ホタルの里づくり」、ワラビの栽培等多岐に及ぶ。今後の活動にも注目していきたい。



緑豊かな萩野地区